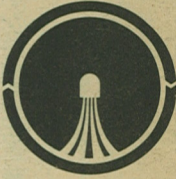


第6号

ほんきょうろ
本郷とは人類の本郷(地上天国)
という意味です。従って、本郷路とは
地上天国実現のための道路です。
(題字は文鮮明師)



本郷路

昭和60年(1985年)6月1日発行

発行所 国際ハイウェイ建設事業団
東京都渋谷区道玄坂2-10-12
新大宗ビル3号館4F TEL 03(496)2893
THE INTERNATIONAL HIGHWAY CONSTRUCTION CORPORATION

建設実現への大きな気運

国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会



多数の来賓を迎えて、熱気あふれる総会会場(ホテルニューオータニ、鳳凰の間)

国民運動への飛躍

第三回総会を盛大に開く

国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会(会長・佐々保雄北海道大学名誉教授)は、五月二十九日、東京都千代田区のホテルニューオータニで第三回総会を開催した。総会には会員約三百名が参加し、未曾有の巨大プロジェクトの進展状況に大きな驚きと期待が投げかけられ、会場は終始熱気に包まれた。また総会に先立って、第一部会から第四部会までの研究報告会もまたれ約三百名の学者、技術者が参加して白熱した質疑応答が行われた。

(第二・三・四回に連続記事)

総会には、研究会理事の大塚茂氏(特定産業信用基金理事)の司会が始まり、佐々会長が冒頭挨拶で、研究会設立の経緯とこれまでの研究成果を紹介し、「近い将来に工事が着手できると、実現するであろう」と、希望の協力と理解を得て研究会を更に発展させてゆきたいと抱負を語った。
次いで、国際ハイウェイ建設事業団を代表して梶栗玄太郎理事長が、「国際ハイウェイの建設は、具体的な世界平和につながる」と、国際ハイウェイ構想の意義を語り、早期実現のため参加者の協力を訴えた。
更に来賓として、青葉勲(ふなば くにゆき)・日本経済調査協議会理事(西堀先生を始めとする御来賓の先生方、並びに佐々会長を始めとする研究会役員の皆様、そして御会場の皆様方のあたたかい御協力と御指導によりまして、国際ハイウェイの建設も更に前進し、九州の唐津・野坂・対馬での現地活動も非常に活発に行われております。これからも、現地の調査活動並びに具体的なトンネル建設工事が益々進展してゆくと、ご期待いただけます。御指導をよろしくお願い申し上げます。

研究会理事の大塚茂氏(特定産業信用基金理事)の司会が始まり、佐々会長が冒頭挨拶で、研究会設立の経緯とこれまでの研究成果を紹介し、「近い将来に工事が着手できると、実現するであろう」と、希望の協力と理解を得て研究会を更に発展させてゆきたいと抱負を語った。
次いで、国際ハイウェイ建設事業団を代表して梶栗玄太郎理事長が、「国際ハイウェイの建設は、具体的な世界平和につながる」と、国際ハイウェイ構想の意義を語り、早期実現のため参加者の協力を訴えた。
更に来賓として、青葉勲(ふなば くにゆき)・日本経済調査協議会理事(西堀先生を始めとする御来賓の先生方、並びに佐々会長を始めとする研究会役員の皆様、そして御会場の皆様方のあたたかい御協力と御指導によりまして、国際ハイウェイの建設も更に前進し、九州の唐津・野坂・対馬での現地活動も非常に活発に行われております。これからも、現地の調査活動並びに具体的なトンネル建設工事が益々進展してゆくと、ご期待いただけます。御指導をよろしくお願い申し上げます。

理事長挨拶

第三回総会での挨拶より抜粋、要約

西堀先生を始めとする御来賓の先生方、並びに佐々会長を始めとする研究会役員の皆様、そして御会場の皆様方のあたたかい御協力と御指導によりまして、国際ハイウェイの建設も更に前進し、九州の唐津・野坂・対馬での現地活動も非常に活発に行われております。これからも、現地の調査活動並びに具体的なトンネル建設工事が益々進展してゆくと、ご期待いただけます。御指導をよろしくお願い申し上げます。



世界平和に貢献

国際ハイウェイ建設事業団理事長

梶栗 玄太郎

信じておられます。その第一歩として、日韓トンネルの

研究が始まっているので、確信が持てるようになってゆきます。日韓トンネルは、やがて中国大陸へつながってゆく訳ですが、現在まで何らかの妨がりで進められておりました。中国としては、ハイウェイ建設を非常に歓迎しておりますが、建設費用と技術に関しては日本からの協力が無ければ、建設は難しいといった現状であります。
そういう訳で、中国の安東から北京までの千五百キロに及ぶハイウェイ建設が、意外と日韓トンネルよりも早く着手され、実現する可能性がみえる感じがございます。是非とも日本と韓国との日韓トンネル建設を推進して頂きます様お願い申し上げます。
本日は、お忙しいなか、第三回総会にご出席いただきましたことを心から感謝申し上げます。挨拶にかえさせていただきます。

結ばれれば、具体的世界平和につながるという確信が持てるようになってゆきます。

平和の架け橋・国際ハイウェイプロジェクト

(ご案内)

ビデオ

- 「国際ハイウェイ」(23分)【日・英語】
●「道・国際ハイウェイ・プロジェクト」(30分)【日・英語】
●「本郷路」I (11分)【日・英語】
●「本郷路」II (23分)【日・英語】

16 ミリ

- 「道・国際ハイウェイ・プロジェクト」(30分)

パンフレット

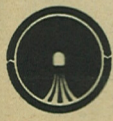
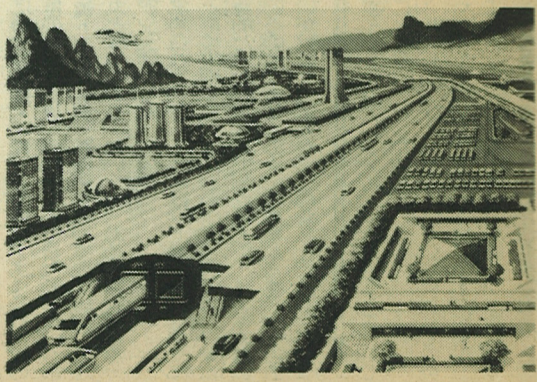
- 「国際ハイウェイ・プロジェクト」(A4判、12頁 カラー)
●「国際ハイウェイ基本構想」(A4判変型、40頁)
●「INTERNATIONAL HIGHWAY PROJECT」(B5判、17頁)【英語】

機関紙

- 「本郷路」(タブロイド判4頁)

●お申し込みお問い合せ

☎03-496-2893



国際ハイウェイ建設事業団
THE INTERNATIONAL HIGHWAY CONSTRUCTION CORPORATION

〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-12
新大宗ビル3号館4F

КОНТАКТЫ
СЛУЖБА
ИНФОРМАЦИИ

日韓トンネル実現へ

雨の降る中、多くの学者・技術者が東京千代田区のホテルニューオータニ・鳳凰の間に集まり、一年間の活動報告に、熱心に耳を傾けていた。設立されてから二年、日本を代表する学者、技術者たちが、世紀の巨大プロジェクト推進のために各部会にわかれて研究を重ねてきた。そしてその成果が、この日に発表された。また、各界から多数の来賓もかけつけ、「提唱者・文鮮明師が訴える世界平和の理想を実現する為には、一日も早くこの国際ハイウェイプロジェクトを完成させよう」と激励のメッセージが送られた。総会終了後、会場をきりの間に移して懇親会がもたれ、和やかな雰囲気の中で今後の計画が話し合われ、盛会のうちに終わった。

日韓トンネル研究会 第3回総会



トンネル建設へ、全員一丸となって取り組むことを確認し合った。(懇親会会場)

早期建設への期待

会場をつつむ興奮の渦

「近い将来、工事が可能となり、今後一年以内に、試験的掘削も可能となります」と冒頭の挨拶に立った佐々保雄会長は、これまでの活動成果を報告した。「設立後、二年しか

経過していないのに、これ程発掘し、研究が進んでいるとは」と、二百名を超す参加者たちから驚きの声があがった。

文鮮明師が、ソウルにおいて開催された「科学の統一に関する国際会議」の席上で、八一年十一月、国際ハイウェイ構想を提唱してから三年半。夢と考えられていたプロジェクトは、具体的に進められており、わずか三年余りで建設の段階にまで至った。技術的に最も困難と思われていた日韓ルートは、調査は概ね終了し、トンネル建設の拠点となる唐津、彦岐、対馬では、既に事務所が開設され、建設準備が着々と進められている。更に、現在中国では、近代化に伴う道路建設の必要性が叫ばれており、夢が急速に現実へと近づいてきたようだった。

佐々会長は、次は挨拶に立った青葉氏は、国際ハイウェイプロジェクトの背後に流れる、人類愛に基づいた思想を高く評価し、西堀氏も「ロマンは必ず実現する。それを追いつくべく、今年度の研究項目を更に

「近い将来、工事が可能となり、今後一年以内に、試験的掘削も可能となります」と冒頭の挨拶に立った佐々保雄会長は、これまでの活動成果を報告した。「設立後、二年しか経過していないのに、これ程発掘し、研究が進んでいるとは」と、二百名を超す参加者たちから驚きの声があがった。

文鮮明師が、ソウルにおいて開催された「科学の統一に関する国際会議」の席上で、八一年十一月、国際ハイウェイ構想を提唱してから三年半。夢と考えられていたプロジェクトは、具体的に進められており、わずか三年余りで建設の段階にまで至った。技術的に最も困難と思われていた日韓ルートは、調査は概ね終了し、トンネル建設の拠点となる唐津、彦岐、対馬では、既に事務所が開設され、建設準備が着々と進められている。更に、現在中国では、近代化に伴う道路建設の必要性が叫ばれており、夢が急速に現実へと近づいてきたようだった。

佐々会長は、次は挨拶に立った青葉氏は、国際ハイウェイプロジェクトの背後に流れる、人類愛に基づいた思想を高く評価し、西堀氏も「ロマンは必ず実現する。それを追いつくべく、今年度の研究項目を更に

「近い将来、工事が可能となり、今後一年以内に、試験的掘削も可能となります」と冒頭の挨拶に立った佐々保雄会長は、これまでの活動成果を報告した。「設立後、二年しか経過していないのに、これ程発掘し、研究が進んでいるとは」と、二百名を超す参加者たちから驚きの声があがった。

主催者、来賓あいさつ

建設工事着工へ

日韓トンネル研究会会長 佐々保雄



一九八一年十一月、ソウルにおいて開催されたICUSで、国際文化財団創設者の文鮮明師が、世界平和の実現を目指して、国際ハイウェイ構想を提唱されました。それを受けて日韓トンネル研究会が設立され、今年で三年目を迎えます。この間、多くの方々の御協力を得て海陸に地質・気象・環境・その他調査活動が続けられ、多くの事が解明されてまいりました。国際的なプロジェクトであり、技術的な問題も多く、一朝一夕に実現できるものではありません。私共、ロマンを追う精神をもち、この国際ハイウェイプロジェクトという巨大なるロマンを、実現へと近づけてゆかなくてはなりません。私共、この国際ハイウェイの実現が、人類の幸福に結びつけられ、かつ子孫に継承されることを願っています。今後、五年、十年と見違えるように調査が進んでいく中で、現在近づいてゆかなくてはならない調査項目が、私共、この国際ハイウェイの実現が、人類の幸福に結びつけられ、かつ子孫に継承されることを願っています。今後、五年、十年と見違えるように調査が進んでいく中で、現在近づいてゆかなくてはならない調査項目が、私共、この国際ハイウェイの実現が、人類の幸福に結びつけられ、かつ子孫に継承されることを願っています。

早い時期に実現

日本生産性本部理事 西堀栄二郎

この国際ハイウェイプロジェクトという巨大なるロマンを、実現へと近づけてゆかなくてはなりません。私共、この国際ハイウェイの実現が、人類の幸福に結びつけられ、かつ子孫に継承されることを願っています。今後、五年、十年と見違えるように調査が進んでいく中で、現在近づいてゆかなくてはならない調査項目が、私共、この国際ハイウェイの実現が、人類の幸福に結びつけられ、かつ子孫に継承されることを願っています。

平和実現の手段

日本経済調査協合理事相談役 青葉翰於

国際ハイウェイプロジェクトが、人類の平和実現という高い理想の具体的な手段として計画されている事に、私は深い関心を持っています。更にこの

環境問題を検討する第四部会

は、田村時部会長が「今年度は、これまでの研究成果を踏まえて、海城部及び関連地域の開発方法について検討を加えてみたい」と報告した。

その後、役員選出が行われ、尾正明・神戸学院大学学長、谷口敏雄・日本工営最高顧問ら十三名が、新たに役員として研究会の運営に携わることになった。

金山政英・元駐韓大使の閉会辞で総会が終り、続いて懇親会がもたれた。会場には、これまでの活動状況がパネルに展示されており、参加者はパネルを前にこれまでの研究活動を振り返り、今後の方向性を話し合っていた。また、途中から無窮会の歌と演奏が加わり、会場に花が添えられた。和やかな雰囲気で、心を通い合ってきた。

現在日本では、経済摩擦を解消する唯一の手段として、内需



金山政英

閉会の中で心を通い合ってきた。田村時部会長が「今年度は、これまでの研究成果を踏まえて、海城部及び関連地域の開発方法について検討を加えてみたい」と報告した。その後、役員選出が行われ、尾正明・神戸学院大学学長、谷口敏雄・日本工営最高顧問ら十三名が、新たに役員として研究会の運営に携わることになった。

時代が応援する

国際文化財団理事長 久保木修己

このプロジェクトが開始される時、国家を超える国際的なプロジェクトでしたので、私は歴代の国家指導者の方々に直接このことを訴えて、大巨匠了解の拡大が叫ばれており、私自身、日韓トンネルこそ内需拡大の最も有効なものではないかと考えております。更に、北東アジアの平和のために南北会談が行われているこの時期に、日韓トンネルの研究が更に深まって、早期実現の方向へ展開してゆかなくてはならないと感じています。私自身、日韓トンネルの研究が最も有効なものであると感じています。私自身、日韓トンネルの研究が最も有効なものであると感じています。

地上天国建設の為に

元駐韓大使 金山政英

またいろいろな調査がありましようけれど、部会の研究報告によると、研究の段階が終って建設の段階にまで進んできたという事です。

地土王国の発展のため

局長、文鮮明師が提唱された国際ハイウェイプロジェクトの推進が最も適当であると認めます。このプロジェクトが一日も早く実現するよう努力してまいります。今後共、御機嫌、御協力をお願いいたします。

内需拡大にも有効

衆議院議員 戸塚進也

現在日本では、経済摩擦を解消する唯一の手段として、内需

消す唯一の手段として、内需

世界のマクロエンジニアリング からみた日韓トンネル

記念講演

世界平和への貢献

第三回総会の記念講演より
抜粋、要約。
(文責・編集部)

マクロエンジニアリングから見た日韓トンネルという観点で、前半を世界のマクロエンジニアリングの現状と方向性、後半には、先日のアメリカ・MITにおけるシンポジウムの成果を報告しながら、日韓トンネル

の今後について考えてゆきたいと思えます。まさに大きく考えることがマクロエンジニアリングの基本ですので、アポロ計画から始まった宇宙開発の中を流れるマクロ的な発想からみてみたいと思えます。

宇宙に活路を

月から見た地球は非常に美しい。そのため月へ行った宇宙飛行士たちは、みんな神秘的な感

覚におそわれ、月ではすぐ側に神様を感じたという人もいます。地球の人口は四十八億人。重量にして二億トンにもなります。その人々が毎日数百万トンづつ食べ、飲み、出している尿ですが、そのために巨大なインフラストラクチャーが必要となり、マクロエンジニアリングの重大な共通課題なので、現在、この地球を支えることができないのは、十億人が絶対限界値とされており、人類の人口が十億人に達するまで、宇宙での生活環境を確保しておかなければならないという考えが、現在の宇宙開発の非常に深いところを貫いているのです。

国を超えるハイウェイ マクロ的な視野が必要



一橋大学教授
中川 学

十四世紀に中国でロケットが発明されてから、今日のスペースシャトルまで続いた化学反応ロケットは、その役割を終えるかもしません。その次の最も有力なものは、リニアモーターカーです。

トを幾つも要所々々につけておきます。シンポジウムの方が、ゆかなければならないと考えています。その瞬間にシンポジウムは三百以前方に到着してしまっています。今の実験では、秒速四百キロに達しています。実際のプラネットランに関するシンポジウムは、日本から佐々木会長が開催され、日本から佐々木会長が代わり、リニアモーターカーが走り、ロサンゼルスからニューヨークまで、三千キロを十分

の活動を支え、更に地球へも送電しようというところで現在、太陽エネルギー学会が結成され、太陽宇宙発電のさまざまなプランが練られています。また宇宙ステーションの建設によって、月の開発は本格化してゆきます。月の開発は本格的に、月の鉱石中にも、不思議な事に、月の鉱石中には酸素がたくさん含まれてお

り、更に、月の土から水素も大量に生産できることがわかり、月の工場生産はかなり有望になっております。月を出发点として他の惑星の資源も利用すれば、心配されている資源の限界というものが克服できると考えられます。

マクロ的視野で

マクロエンジニアリングという概念を考えたのは、アメリカ・MITのフランク・ティンソン博士です。地球全体が危機に瀕しているこの時期に、すべての問題を総合的に解決し、ゆくために、巨大プロジェクト

吉岐・対馬の未来

喜岐は拒否したが、対馬をバックアップして、さまざまなハイテクプロジェクトの基地としておきたいと思われたい。

近、海底にロボット化された工場をつくり、海底ケーブルで部品を送って製品をケーブルで回収するシステムも考えられており、立地条件からみても有望だと考えられます。

提唱者の言葉

第四回科学の統一に関する国際会議(一九七五年)の講演より抜粋

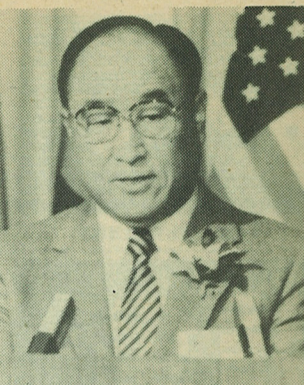
人間は、自己の内に生命があることを意識しています。なぜなら最高次元の根源から生ずる心は、空間や時間に制限されないからです。

科学は人類の為に 新しい世界秩序の構築

学は科学の領域外から評価されなくてはなりません。科学の方針は、一つの全体としての社会というものを考慮して、決定されてはなりません。すなわち科学は、科学自身のためにあるのではなく、人類の福祉のためにあるのです。言い換えれば、人間の日常生活において、意味を

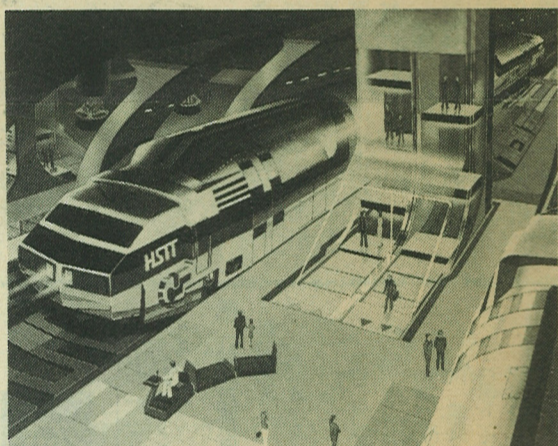
助けてあげられます。最終的には、二分野の統合が起るべきです。このようにして私達は、最高次元の形而上の世界の中心点に連結された外的な目に見える世界に位置づけられる中心点を持つことができます。この中心点に、その時、前者は授受作用の中で、空間、時間内の全て

た、精神的次元の目に見えるの最先端を、理解するの専門分野の知識を統一的な方法で活用するならば、人間社会のすべての既存の問題を観察し把握して、解決できることと信じております。このようにして、既存の世界から科学の中心性や絶対的価値は、確立され、高められるのであります。皆様方が腹藏な、この大きな企図に対して、貢献されることを期待いたします。



国際文化財団創設者
文鮮明師

類が国家的・人種的障壁を乗り越えて兄弟姉妹であり、一家庭として生きるような新しい世界秩序を築くことにより、真の平和と、真の幸福に満ちた理想世界を享受することができると。これを現実のものとするためには、科学は、目に見える外的なものについて研究を始めます。しかしながら、科学はまた、精神的次元の目に見えるの最先端を、理解するの専門分野の知識を統一的な方法で活用するならば、人間社会のすべての既存の問題を観察し把握して、解決できることと信じております。このようにして、既存の世界から科学の中心性や絶対的価値は、確立され、高められるのであります。皆様方が腹藏な、この大きな企図に対して、貢献されることを期待いたします。



プラネットラン (アメリカ大陸を20分で横断する)

また、MITのワイルソン教授が考案したプラネットランシステムのモデルもありました。軌道動力として推進してゆくトンネルに沿ってガイドレールが取り付けられたと思われたい。

プロフィール

昭和十一年生まれ。三十四年一橋大学経済学部卒業。三十九年一橋大学大学院博士課程修了。同大学講師、助教授を経て四十四年より経済学部教授。五十二年から五十九年までハーバード大学燕京研究所へい研究員となり、五十九年からはマサチューセッツ工科大学ブルーネル特別講師を務める。五十八年社団法人「日本工業技術振興協会」マクロエンジニアリング部会長、五十九年社団法人「日本プロジェクト産業協議会」理事としてハイウェイプロジェクトにも

日韓トンネル研究会役員

〈名誉会長〉

松下 正寿 元立教大学総長

〈会長〉

佐々 保雄 北海道大学名誉教授

〈副会長〉

梶原玄太郎 国際ハイウェイ建設事業団理事長

金山 政英 元駐大韓民国日本大使

瀧山 養 海外鉄道技術協力協会理事長

〈顧問〉

原谷 正造 評論家

岡田 實 元大阪大学学長

尾上 正男 神戸学院大学学長

景山 哲夫 近畿大学学長

久保木修巳 国際文化財団理事長

郷司 浩平 日本生産性本部会長

高田 源清 九州大学名誉教授

那須 聖 外交評論家

西堀栄三郎 日本生産性本部理事

山田伴次郎 前京都大学学長

池田 肇 横河工事業取締役社長

岡本 男雄 山岸建設代表取締役社長

☆谷口 敏雄 日本工営最高顧問

永野 茂門 富士通常任顧問

西川 政一 日商岩井(株)相談役

藤岡 清俊 日本発条(株)取締役会長

前原 達一 岩崎電気(株)相談役

☆八木 信雄 朝日文化協会理事長

☆山岡 建雄 国際ハイウェイ建設事業団副理事長

☆吉村 恒 佐藤工業(株)顧問

〈常任理事〉

小山田秀生 国際文化財団副理事長

北原 正一 関西谷組専務取締役

☆木村 敏雄 東京大学名誉教授

清水肇八郎 千葉大学名誉教授

高橋 彦治 八千代エンジニアリング(株)取締役

☆辻田 時美 北海道大学名誉教授

鳥羽欽一郎 早稲田大学教授

中川 学 一橋大学教授

樋口 芳朗 東京理科大学教授

李 健 政治経済評論家

☆太田 洪量 国際ハイウェイ建設事業団常任理事

大脇準一郎 世界平和教授アカデミー事務局長

☆岡部 達郎 元国鉄常務理事

加藤 渉 日本大学理工学部長

☆河野 博忠 筑波大学教授

紅林 茂夫 国際経済研究センター理事長

小関 幸吉 熊鷹公組顧問

☆佐久田昌昭 日本大学教授

桜井 設雄 国際ハイウェイ建設事業団常任理事

瀬古 新助 中央開発代表取締役会長

高橋 正吾 新日本気象海洋代表取締役

中村 信夫 システムデザイン研究所所長

☆濱 建介 前田建設工業(株)常務取締役

☆平野 敏行 東海大学教授

福田 泰三 サンコーコンサルタント常務取締役

古田 元男 (株)ハッピーワールド社長

松本 壽司 東京大学教授

☆松山 貢三 国際ハイウェイ建設事業団副理事長

宮崎 政三 日本物理探鉱(株)常務取締役

〈監事〉

大塚 茂 特定産業信用基金理事

本島 信 弁護士

☆印は新役員を示す

〈昭和六十一年六月一日現在〉

技術的な問題を克服へ

質疑応答も活発に

部会研究報告会を開催

日韓トンネル研究会

第3回総会

五月二十九日、第三回総会に先立って午後一時から、ホテルニューオータニ・桂の間、楓の間において、研究会第一部から第四部までの研究報告が開かれた。会場には、約三百名の学者・技術者が参加し、配布された資料に目を通しながら一年間の研究活動の概要報告に熱心に耳を傾けていた。そして、専門家の立場からトンネル建設の技術的な問題に対して、白熱した質疑応答が繰り返されていた。

報告会は、各部会間の関連性を考慮して、第一部から第四部が桂の間、第二・第三部は楓の間で行われた。

◆第一部会報告

第一部会は、鳥羽敏一郎部長の挨拶で始まった。この日は、理念・文化・法律・経済等の問題を検討してゆくが、今回は特に、提唱者である文解明師のハイウェイ提唱の基本理念が、山岡建雄・事業団副理事長によってマルチビジョンを使いながら紹介された。山岡副理事長は、「これまで以上に細分化された科学を人類の平和のために役立たせる」と、国際ハイウェイ構想の理念です。ハイウェイ建設によ

て、世界中のさまざまな対立を解決し、平和を実現する手段としてハイウェイ構想が提唱されたことを明確にした。

また中川学・一橋大学教授は、日韓トンネル建設の経済的側面について報告し、「日本と韓国との間にトンネル建設の経済的効果は期待できない。しかし、今後期待される中国東北部を含む東北アジア経済共同体の形成を考えると、日本と韓国は、海峡を越えて繋ぐこの地域にトンネル建設の経済的効果が期待できる」と、提唱者の高邁な理想を踏まえた上で、概念設計に移る必要がある」と、言葉を加えた。

総括して鳥羽部長は、「提唱者の高邁な理念と現実とを結びつけてゆくのが第一部会の仕事です。現実的な経済的意義づけについても、人類の理想、夢をいかに実現させるか、と深く考える必要がある」と述べた。

◆第二部会報告

トンネル建設に必要な、地形・地質・水理等を検討する第二部会は、佐々保建設部長の挨拶で始まった。陸域部及び海城部の地質調査は、これまで日韓ルート全域にわたって行われてきたが、今回は去年実施された豊岐・対馬のボーリング調査の報告、対馬北部の地質調査の報告が行われた。更に、海城部全般にわたる音波探査の解析結果も報告された。

◆第三部会報告

第三部会は、トンネル路線の選定・設計・施工等を担当しているが、北原正一部長の挨拶の後、各案の研究報告が行われた。二百を超えるトンネル計画で、水深も最大二百メートルに達する為、各小委員会が数々の構

第1・第4部会報告会



一年間の研究報告に熱心に耳を傾ける参加者

造形式が比較検討されてきた。去年年度は、海底トンネル計画・橋梁計画・沈埋トンネル計画・人工島計画・道路換気機の検討が行われている。

総括した木村敏雄・東京大学名誉教授は、「これまでの調査で、非常に多くの新しい事実が判明し、地質学的にも有用なデータが求められた。トンネルと海城部の間に、百メートルの断層が発見され、対馬側では、技術的な立場から指摘されている。また、豊岐でも、トンネル内部の換気心配されていたが、既に開

発されているメタンガスが、ディーゼル車の排気ガスに比べて、車の走行は十分可能である」と報告された。

北原部長は総括として、「データがまだ十分ではないため、各案とも概算コストの段階であるが、データが揃いつつ、細部の検討を加えてゆきたい。海底トンネルと橋梁の比較検討は、それと一長一短があり、技術的には評価できない。環境、気象等については検討を行う第四部会は、辻田時美部長の挨拶の後、四つのテーマに

研究報告会プログラム

第一・第四部会

- 第一部会報告(理念・文化・法律等)
部長挨拶
鳥羽敏一郎(早稲田大学教授)
司会
中村 信夫(システムデザイン研究所)
各報告
(一) 国際ハイウェイ計画の基本的理念
山岡 建雄(国際ハイウェイ建設事業団)
(二) 日韓トンネルプロジェクトの経済的側面の予備調査
中川 学(一橋大学教授)

第二・第三部会

- 第二部会報告(地形・地質・土質等)
部長挨拶
佐々 保雄(北海道大学名誉教授)
司会
福田 泰三(サンコーコンサル)
各報告
(一) 豊岐・対馬のボーリングについて
千葉 正美(日韓トンネル研究会)
(二) 海城部マルチチャンネルについて
小田 友也(川崎地質院)
(三) 対馬北部地域の地質調査
坂本 睦泰(西日本技術開発院)
中川 英朗(西日本技術開発院)
福間 敏夫(サンコーコンサル)

第四部会報告

- (環境・気象・海象等)
部長挨拶
辻田 時美(北海道大学名誉教授)
司会
彦坂 繁雄(三洋水産測量院)
各報告
(一) 日韓トンネル関連地域開発整備計画
吉武 祐一(地域設計研究所)
(二) 青函トンネルの事例研究
伊藤 英臣(阪大)
(三) 工事中の影響について
堀口 孝男(東京都立大学教授)
(四) 海城部環境調査
田畑日出男(新日本気象海象院)
質疑・応答
総括
辻田 時美

第三部会報告

- (路線・設計・施工等)
部長挨拶
北原 正一(熊谷組)
司会
加藤 清志(防衛大学校教授)
各報告
(一) 日韓海底トンネル計画
持田 豊(サンコーコンサル)
(二) 日韓トンネル人工島計画
林 道雄(KMエンジニアリング)
(三) 呼子・豊岐間橋梁一般図作成
真栗 純治(日本工務院)
(四) 沈埋トンネル案調査
梅原 芳昭(日本港湾コンサル)
田 道路換気計画に関する調査
比留間 豊(東京道路エンジニア)
質疑・応答
総括
北原 正一

◆第四部会報告

これまでの研究で、現段階で、住民の生活に自然環境破壊につながる重要な問題とあるため、技術的にはトンネル建設は絶対に行われてきた。そして今回の報告では、トンネル建設の技術的な立場からトンネル建設の問題をめぐって日韓トンネルが関連地域に与える影響を地域に直接影響を与える分野の特徴を踏まえ、地域開発、環境創造の立場から検討が加えられていた。特に佐々・豊岐・対馬、日韓の間に位置する地域開発構想が発表され、日韓をつ



木村敏雄・東京大学名誉教授による総括

木村敏雄・東京大学名誉教授による総括

国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会

◎「日韓トンネル時報」(B5判)
.....500円(送料込)

◎「日韓トンネル研究」(B5判)
.....2,000円(送料別)

●振り込み先
三菱銀行渋谷支店(普)5986474 振替 東京8-143133

●お申し込み先
☎03-496-9211

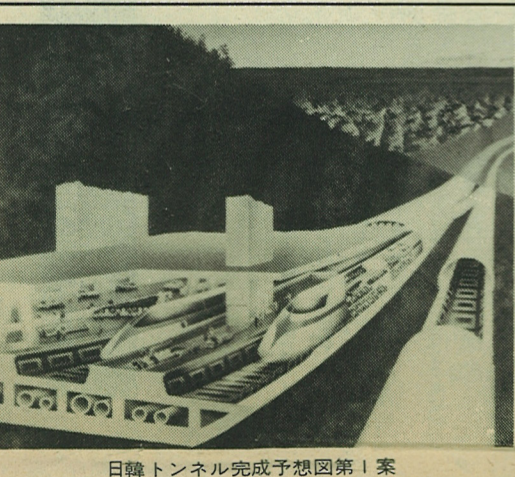
会員募集

- 正会員

年額	1口	5,000円
----	----	--------
- 賛助会員

年額	個人	1口	10,000円以上
年額	法人	1口	50,000円以上

〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-12
新大森ビル3号館930号室 電話03-496-9211(代表)



日韓トンネル完成予想図第1案